

統 計

JA 新潟県厚生連剖検輯報(長岡中央総合病院病理部 第8報)  
—2012年度(平成24年度)、日本病理学会第55輯掲載予定分—

長岡中央総合病院、病理部；病理医

い か らし とし ひこ  
五十嵐俊彦

キーワード： JA 新潟県厚生連、長岡中央総合病院  
病理部、剖検輯報、2012年度(平成24年度)

英 文 抄 録

2012年度(平成24年度)のJA新潟県厚生連解剖記録を掲載しました(表2)。詳しい検討内容は当施設保存の詳細な剖検輯報表に保存してありますので、希望がありましたら、改めて問い合わせを頂きたいと思

います。  
新潟県厚生連関連施設での剖検例を積極的に情報開示することは、医療の質を見直す意味において意義があるのではないかと考えております。病理解剖の意義の普及と今後の厚生連医療の進歩を期待します。あわせて、県内主要施設における年間解剖件数の推移を掲載しましたので、参考にしていただきたいと存じます(表1、図1)。

謝 辞

改めて、病理解剖に協力いただいた御遺体提供者の御冥福をお祈りするとともに、その御家族・親戚、日々の献身的治療並びに解剖承諾に努力された医療スタッフの皆様に御礼を申し上げます。

蛇足 死亡診断書と死体検案書の区別と記載参考文献(図2)

Statistics.

Annual report of pathological autopsy cases in Niigata Prefectural Welfare Federation of Agricultural Cooperatives in 2012 (24<sup>st</sup> year of Heisei)

Nagaoka Central General Hospital, Department of Pathology, Pathologist  
Toshihiko Ikarashi

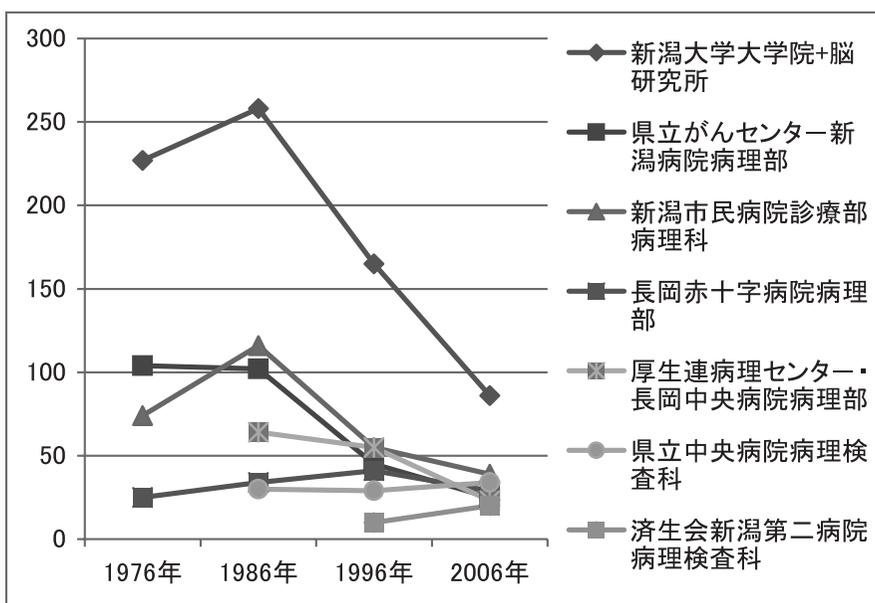
An annual report of pathological autopsy cases in Niigata Prefectural Welfare Federation of Agricultural Cooperatives in 2012 (24<sup>st</sup> year of Heisei) was listed in this paper.

Key words: Niigata Prefectural Welfare Federation of Agricultural Cooperatives, JA Niigata, annual report of pathological autopsy cases, 2012, 24<sup>st</sup> year of Heisei

表1、図1. 新潟県内施設の剖検件数の年度別推移

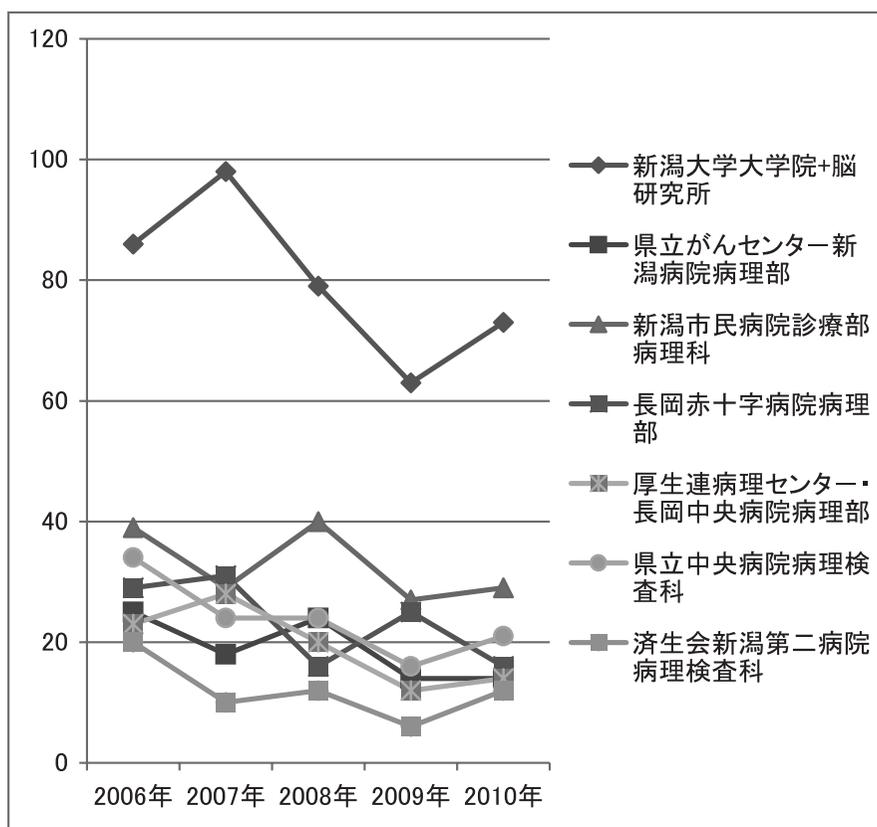
30年間の変遷

	新潟大学大学院+脳研究所	県立がんセンター新潟病院病理部	新潟市民病院診療部病理科	長岡赤十字病院病理部	厚生連病理センター・長岡中央病院病理部	県立中央病院病理検査科	済生会新潟第二病院病理検査科
1976年	227	104	74	25			
1986年	258	102	116	34	64	30	
1996年	165	45	55	41	55	29	10
2006年	86	25	39	29	23	34	20



直近5年間の変遷

西暦	新潟大学大学院+脳研究所	県立がんセンター新潟病院病理部	新潟市民病院診療部病理科	長岡赤十字病院病理部	厚生連病理センター・長岡中央病院病理部	県立中央病院病理検査科	済生会新潟第二病院病理検査科
2006年	86	25	39	29	23	34	20
2007年	98	18	29	31	28	24	10
2008年	79	24	40	16	20	24	12
2009年	63	14	27	25	12	16	6
2010年	73	14	29	16	14	21	12







西暦年度-番号	被剖検者：年齢(生年月日)、性別、職業、住所、出所担当	臨床診断(病歴期間)	剖 検 所 見
SN12-011 (2012/11/02, 09:30)	男、79才(1932/11/14)、 ?、長岡市、長岡中央内科、石田、 諸	二重癌：1.7x腸癌(2001/09/26, A、2、4x3x1cm, ut2, ss, a2, lv1, v1, ew+, n+, pT3pN2a=IIIb)術後、肺転移、肺切除3回(2005/05/24, RML, 1.6cm, tub1, 2005/07/12, LUL, 2cm, tub1, p2, 2008/03/15, LUL, 2.2cm, tub1, mediastinum+)、肺出血、2.肝癌(2003/11/27, Ph, 2.5x2.5x2cm, infiltrative, ly0, v0, pap>tub1, n-, pT2pN0=Ib)術後、術後再発なし	主病変：二重癌(1.大腸癌、術後、再発；両肺、再発；両門・縦隔リンパ節、2.肝癌、術後、再発なし)、 副病変：固質性肺炎(EBV)、左、前立腺肥大、肝線維化、軽度、瘤膜線維化、胸水
SN12-012 (2012/12/25, 22:00)	46才(1966/11/08)、 男、?、目附市、長岡中央内、雷 所、後藤諒	アルコール性肝硬変、下血、多臓器不全、DIC	主病変：アルコール性肝硬変(線維化高度、肝硬変へ一部移行)、 副所見：固質性肺炎(両肺)気管支肺炎(左)、DIC(皮下、胃出血、大腸出血)、 胆血性腎症、脾梗塞、食道静脈瘤、腹水、胸水

(2013/01/08受付)